



KICK OFF 通信

目指せ！人財大国 人口減少時代への挑戦

◆半分の市町村が消滅する

去る2014年5月、日本創生会議は衝撃的な研究結果を公表しました。それは、2040年には全国の約半分、896の市町村が消滅する恐れありとするデータです。これは、出産適齢期と言える「20～39歳」の女性が、この地域で半減するであろうとの予測からきております。

人口減少社会という「不都合な事実」をどう受け止めていくべきでしょうか。政府は、子どもを産み育てやすい環境を作り、あらゆる政策を投入すると意気込みます。しかしこれは余りに短絡的、その根っこの部分が改善されない限り、到底この流れを食い止めることが出来なんでしょう。

◆地方都市の挑戦は続く！

何とかして若年層の流出を食い止め、またUターンを促すのか。様々な自治体が知恵を絞りながら、躍起になっている姿が散見されます。そんな中、秋田県大館市の実

例をご紹介したいと思います。

毎年1千人の人口減少をもたらす大館市は、ご多分に漏れず消滅都市に数えられております(そもそも、秋田県の96%の都市が消滅すると予測されている)。それに大きな危機感をもった市は、8年前から、小・中学生に対して「ふるさとキャリア教育」をスタート。先ず市内25の学校に、独自の視点から「百花繚乱作戦」と名付けて、実践活動を要請しました。中には自分たちで育てたヒマワリの種を原料化し、それで得た利益でキャリア体験旅行をしている小学校もあるほどです。

また「子どもハローワーク」という、企業からの応募にマッチングさせる窓口を設置して、生徒の自由意思をもって選択させております。勿論、総合学習の授業ではありません。その上、14万人の来客を数える「きりたんぼ祭り」に、1千名の生徒たちがボランティアで参加する仕組みも作りました。

子ども達が「地元で働くことや、

ここで生きることの価値」に繋げてもらいたいという、教育上の願いが、大人たちを目覚めさせ、街全体を揺り動かしたのです。今では「未来人財育成プロジェクト」と銘打って、専門職の育成にも取り組んでおります。

◆教育は共育であり、さらに響育につなげる

当市はこの8年間で、子ども達の非行件数は9分の1に激減。暮らしやすさ満足度が、3倍以上になりました。また、地元で就職した子ども達の68%が、将来も大館市民として生きる選択をしております。さらに75%超を目指して、これからも挑戦は続きます。

子ども達自らが自分らしさを発見でき、他人の役に立っていて、そして周囲からも感謝される、それが数値にも端的に表われ、定着率にも繋がっていくものを思われます。共に学び、互いの心に響かせる、まさに教育の原点を見る思いですね。

【プロフィール】

- 昭和37年 7月28日生まれ
神奈川県立湘南高校・慶應義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に・・・
- 平成 4年 「税は政治なり、税は国家なり」との思いで始めた税理士試験に合格
- 平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
- 平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任
- 平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
総務委員会 & 沖縄・北方領土特別委員会 両理事
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長
- 平成29年 第48回 衆議院選挙に出馬せず下野する
- 平成30年 一般社団法人 人づくり・国創り研究会を設立



前衆議院議員/神奈川5区(戸塚・泉・瀬谷区)